



HITOTSUBASHI UNIVERSITY

SHIBUSAWA

SCHOLAR PROGRAM

一橋大学商学部 渋沢スカラープログラム

# Out of Your Comfort Zone



## 渋沢スカラープログラム名称の由来



「日本資本主義の父」として知られている渋沢栄一は、近代日本経済の黎明期に、多くの会社を設立すると同時に経済制度の策定に貢献しました。また福祉や教育など様々な分野で大きな足跡を残し、一橋大学も格別の支援を受けました。渋沢栄一が備えたインテグリティ(高潔、誠実さ)こそ、時代を超えてグローバル・リーダーに求められる要件だと考え、「渋沢スカラープログラム」という名前を付けました。

## 渋沢スカラープログラムとは

- 渋沢スカラープログラム(SSP)は、経済・社会に対する深い問題意識、高い志と溢れる情熱、直面する課題を主体的に解決する能力を備えた真のグローバル・リーダーの育成を目指します。
- SSPは、1年次終了時における応募に基づいて、約15名の商学部生を選抜します。選抜された学生を対象に、2年次からプログラムが始まります。英語による専門科目や海外留学先大学で履修した科目について所定の単位を修得した学生には、卒業時に修了証書(Certificate)が授与されます。

詳しくはWebサイトをご覧ください。

〒186-8601 一橋大学 東京都国立市中2-1  
Email: ssp-info@cm.hit-u.ac.jp

<http://ssp.cm.hit-u.ac.jp>



HITOTSUBASHI UNIVERSITY

## 一橋大学商学部 渋沢スカラープログラムの特徴

### 英語による専門科目

- 商学部の主要4分野(経営、マーケティング、会計、金融)について、英語による授業を履修します。
- 学生が段階的に学習できるよう、初級・中級・上級の3つのレベルの専門科目が各分野で開講されています。
- 教員との質疑応答や学生間での討論を通じて学習内容についての理解を深めていく双方向的な授業が行なわれています。
- これらの授業は海外協定校からの交換留学生も履修しており、海外からの留学生と肩を並べて議論を交わすことのできる学習環境となっています。

### Shibusawa Scholar Seminar

- セミナーでは、少人数で授業を行い、ビジネスリーダーの方々へのインタビューやディスカッションの機会を設けています。
- これらの機会を通じて、これまで社会で様々な活躍をされてきた方々の考え方に触れ、自身の問題意識を深めることができます。

### 世界のトップスクールへの留学

- 1年間の海外留学が必修となっており、一橋大学の派遣留学制度を通じて全員が世界のトップスクールに留学します(選考あり)。
- 交流協定校との単位互換協定があるため、1年間の留学を挟みながらも4年間で一橋大学を卒業できます。
- 一橋大学海外留学奨学金によって往復渡航費と現地での生活費が補助されます。
- これまでの主な留学先:エセックビジネススクール、オックスフォード大学、カリフォルニア大学、キングス・カレッジ・ロンドン、国立台湾大学、コペンハーゲン経済大学、シンガポール経営大学、ソウル大学、トレント大学、フローニンゲン大学、ペンシルベニア大学、マンチェスター大学、マンハイム大学、ミネソタ大学、ルーヴェン・カトリック大学、ルンド大学、ローザンヌ大学、ロンドン・スクール・オブ・エコノミクス、HEC経営大学院

### 就職先・進学先

- 日本国内のみならず、ボストンキャリアフォーラムなどの留学先での就職機会もあります。
- 主な就職先の業界、進学先:会計監査法人(10名)、外資系金融(5名)、国内金融(10名)、外資系コンサル(11名)、外資系製造小売(1名)、国内製造(8名)、国内サービス(9名)、国内商社(4名)、国内不動産(2名)、大学院進学(国内11名、海外1名)

カリキュラムなどプログラムの詳細についてはURLへ

#### 第4期生 古金 周悟

(オーストラリア国立大学留学→5年一貫MBA進学→外資系インターネットサービス会社勤務)

SSPや留学では、当初英語はまるで苦手、授業内容に関しても自分に知識が足りないものばかりという状態でした。ただ、その状態を深く認めた上で、埋め合わせの努力をし、授業やプログラムになんとかついていくことができました。このことで、自分はどんな環境でもやっていけそうだという自信と楽観的な考えを持ってました。就職では、今まで馴染みの無かったITの分野に飛び込みましたが、そこでもこの体験をもとに、なんとかやっていけるはずという自信を持ちながら働いています。この体験、考えはこれからの人生でさまざまなことに挑戦する上で大切な財産だと感じています。



#### 第7期生 安齋 杏香

(フィンランド:アールト大学留学)

SSPは決して簡単なプログラムだとは言えません。しかし慣れない英語でレポートを書いたり、課題を乗り越えた経験は、留学先で大きな自信につながりました。また、多様なバックグラウンドや得意分野を持つ同期からは常に刺激をうけ、頼れる先輩方には留学や就職活動でお世話になっています。「Out of Your Comfort zone」のスローガンの通り、挑戦した環境だからこそ得られるものが多くあったと感じています。